

			目指す姿(GOAL)		～2025	2026	2027	2028	2029	2030		2035				
建設DX	作業船自動・自律化	省人化施工実現のため 「作業船の遠隔操作・自動自律化」の実現	作業船の遠隔・自動自律操作の 試行と自律化学習										自律化作業船の実用化		完全自律化作業船の配備	
	ロボティクス	現場業務省人化のため「ロボット」と職員の協業実現	パイロット現場での実証検証とデータ取得										主要現場への導入・運用ルール整備			
	施工管理の高度化	安全管理、施工管理へのAIの活用を常態化	AIを用いた管理の試行										AIを用いた管理の実用化		A Iとロボットの協働化	
	BIM/CIM，BIM 活用	(土木) フロントローディングから維持管理まで一連の活用	フロントローディングへの試行的適用										フロントローディングから維持管理までの活用			
		(建築) BIMをすべての起点にした設計から 維持管理への活用	設計、施工計画への試行的適用										全ての領域への適用拡大と維持管理への活用			
		2035年までに全技術職員による関連システム活用の常態化	特定社員への活用教育										全技術職員への活用教育			
	デジタルツインの活用	高精度での不可視部分（土中、水中、深海）の可視化	可視化技術の高度化試行										可視化技術の高精度化			
		安全管理や施工検討の実現と社員教育への活用	仮想空間再現技術の試行										安全管理・施工管理への実装と社員教育への活用			
データ活用	データドリブンの実践	誰もがリアルタイムデータ分析で高度な業務判断が可能	データ連携基盤整備										経営判断データ活用		AIを用いたあらゆる範囲へのデータ活用	
		権限の範囲ですべての社員がデータ活用可能 高度なデータが活用できる次世代経営層の早期教育	高度なデータ活用ができる人材の継続的な育成													
	エージェント型AI活用による イノベーションの創出	ベテランの技術伝承と全社員基礎スキルの底上げ 社内外の埋れた技術の発掘によるイノベーションの創出	非構造データの構造化とRAG高度化										複数のエージェント型AI連動による業務効率化			
働き方DX	多様な働き方の定着	全社員が可能なリモートワーク制度確立 ロボティクスと組合せた多様な人材の活用実現	全社員への環境整備と内勤者適用										現場勤務者者への適用拡大			
	業務効率化の高度化	誰もがローコード開発で自らの業務高度化を実現 （2028年度：全社員の30%が活用、2035年：90%が活用）	ローコード開発の教育と普及										全社員の自発的ローコード開発の実践			
		省人化のためローコード開発とAIを活用した業務の自動化	A I エージェント活用の試行										生成A I、A I エージェントの活用			
人 材	DX推進人材の育成と活用	2025年：30人、2028年：60人規模、2035年：250人規模	システム職の社内制度化										システム職の新規採用とDX推進人材の活用拡大			
	AIガバナンスを遵守した 社員デジタルリテラシー向上	2035年までに全社員が「AIエージェント」で業務効率化 2035年で「ITパスポート」1300人取得、「G検定」合格者100人以上	全社員に対するデジタルリテラシー向上のための継続的な教育													
情報 セキュリティ	ITインフラの整備	常に最新の情報を入手し高度なセキュリティレベルを維持	ゼロトラスト化										データバックアップ体制の継続的な強化（クラウド化、BCPを考慮した体制強化）			
	重要文書管理の強化	重要文書の継続的かつ確実な管理	現規定類の見直し・システムの対応強化										継続的な重要文書の管理の実践			
	情報セキュリティ教育	情報セキュリティ・インシデントを発生させない	全社員に対する情報セキュリティ意識向上のための継続的な教育													